

人と水の関わりは、太古の時代から
現代に至るまで非常に密なものがある。
古代文明も大河のほとりで生まれる
など、水は人間の生活基盤を提供し、
定住から始まり、そこを舞台にした
経済活動、交通手段、文化の進歩を
もたらした例を数多く見られる。水が
入手できる環境によって地域色も
生まれ、そこに住む人間の水に対する
意識にも変化がうまれ、それぞれの
文明にも反映されている例をみることが
できるだろう。人々、海洋を循環する
水は地球の環境、気象にも大きな
影響を与える。一方で水が牙を
むいて大きな悲劇をもたらす津波、
洪水などは記憶にあたる。自然
科学のなかでも水は独特の性質を持つ
物質として独自の研究テーマを提供して
いる。人間を含む地球上の生物は
この水の特異な性質に依存して生きて
いることに気づいてほしい。水をテーマ
に多くのことを文理融合的に学ぶことが
できるはずである。

東京大学 × 南京大学 集中講義

水

2013年3月

会場 | 南京大学仙林キャンパス
対象者 | 南京大学日本語科及び他学部学生
東京大学派遣学生

出講予定教員

羽田正

(東洋文化研究所／文化交流史・比較歴史学)

加藤照之

(地震研究所／津波・地殻変動)

高橋英海

(地域文化研究／シリア学・西洋古典学)

中島隆博

(東洋文化研究所／比較哲学と東アジア)

三浦篤

(超域文化科学専攻／西洋近代絵画・比較芸術)

渡邊雄一郎

(広域・生命環境／生物学)

他

海外の大学で駒場の授業をともに受講し、それをテーマに討論を行う新しい自由研究ゼミナールです。東大の教員によるオムニバス形式の集中講義として、2013年3月に中国の南京大学で開講されます。履修者は、この集中講義に1週間参加します。なお、集中講義に先立ち、集中講義のテーマからピックアップしたプレ講演を、12月に駒場で開催します。大学院生の参加も歓迎します。

学部学生の履修希望者は、必ずガイダンスに出席して下さい。大学院生の履修希望者は、プレ講演より参加し、当日課すレポートを提出して下さい。

- ガイダンス：10月17日(水)6限 1号館101教室
- 開講期間：プレ講演は2012年12月20日(木)6限、
集中講義は2013年3月10日～24日に、
2班に分けて1週間ずつ派遣する予定
- 詳細は、LAPホームページ参照



<http://www.lap.c.u-tokyo.ac.jp/>

主催 東京大学リベラルアーツ・プログラム(LAP)南京

お問い合わせ：admin@lap.c.u-tokyo.ac.jp Twitter ID：@LAP_UT



TODAI Liberal Arts Program
東京大学リベラルアーツ・プログラム